

家 庭

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 目標と指導内容との関連を図った指導計画の作成

共通教科「家庭」においては、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目標としており、人の一生を時間軸として捉えるとともに、生活の営みに必要な金銭、生活時間、人間関係などの生活資源や、衣食住、保育、消費などの生活活動に関わる事柄を空間軸として捉え、各ライフステージの課題と関連付けて理解させることが重要である。

そのためには、生活に必要な知識と技術の習得を通して、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付けることが求められており、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てること、③学習意欲を向上させ、生徒の主体的な活動を生かすことなど、目標の確実な実現を目指す指導計画を作成する必要がある。

バランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、各観点ごとの評価をバランスよく実施することが必要である。

(2) 学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実

学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要である。

そのためには、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図る必要がある。

また、学習評価については、次の点に留意することが重要である。

ア 評価の時期・方法

年間指導計画を作成する際、単元において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理し、必要以上に評価の機会を設けて評価資料の収集等に多大な時間を要することがないようにすること。

イ 評価規準の設定

1 単位時間の中で4つの観点全てについて評価規準を設定するのではなく、無理なく生徒の学習状況を評価できるよう評価規準を設定し、評価方法を選択すること。

ウ 指導の過程、評価方法の見直し

評価の実践を踏まえ、必要に応じて評価規準や評価方法について検討し、見直すこと。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 「確かな学力」を育成するための配慮事項

確かな学力を育成するためには、次の点に配慮することが大切である。

ア 各項目の学習と「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」との関連を図るな

- ど、学習した内容を実生活で活用できるように問題解決的な学習を充実させること。
- イ 思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるため、子どもや高齢者など他者と関わる活動等の中で言語活動を充実させること。
- ウ 生活全体の中での食生活の営みという視点を重視し、調理実習を通して、知識や技術を身に付けることなど食に関する指導を充実させること。
- エ コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークなどを積極的に活用すること。

(2) 学習指導要領のねらいに即した効果的な指導の実践事例

科目名		家庭基礎			
科目の目標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
履修学年		1 学年	単位数	2 単位	
配当時間		70 時間	授業形態	一斉学習、グループ学習等	
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
学期	月	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	時数
1	4	オリエンテーション		・「家庭基礎」の目標、内容を理解させる。	1
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・意義と実施方法について理解させる。	
	5	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉	ア 青年期の自立と家族・家庭 (イ) 青年期の自立 (イ) 生活と意思決定	・生涯発達の視点で青年期の課題を認識させ、男女が協力して家庭を築くことの重要性を考えさせる。	7
<p>「知識・理解」この観点は、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において必要な基礎的・基本的な事項を理解し、知識を身に付けているかを評価する。</p> <p>「関心・意欲・態度」この観点は、家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているかを評価する。</p> <p>「関心・意欲・態度」この観点は、家庭や地域の生活について関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。◇観察法</p> <p>【思考・判断・表現】子どもの発達と保育について、現代の家庭や地域の生活を見つめて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。</p> <p>【関心・意欲・態度】家族や家庭生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、家族や家庭の意義などに関心を持ち、男女が協力して家族を築くという視点から主体的に学習活動に取り組んでいる。◇観察法</p> <p>【思考・判断・表現】生涯発達の視点から、家族・家庭と社会との関わりについての課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。</p> <p>◇作文、発表</p> <p>【技能】事例研究などを通して、家族や家庭生活の在り方などについて検討するための技術を身に付けている。◇ワークシート</p> <p>【知識・理解】生涯発達の視点から、家族・家庭の意義などについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるために必要な知識を身に付けている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもの発達と保育について関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。◇観察法</p> <p>【思考・判断・表現】子どもの発達と保育について、現代の家庭や地域の生活を見つめて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。</p>					
<p>「知識・理解」この観点は、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において必要な基礎的・基本的な事項を理解し、知識を身に付けているかを評価する。</p> <p>「関心・意欲・態度」この観点は、家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているかを評価する。</p> <p>【関心・意欲・態度】家族や家庭生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、家族や家庭の意義などに関心を持ち、男女が協力して家族を築くという視点から主体的に学習活動に取り組んでいる。◇観察法</p> <p>【思考・判断・表現】生涯発達の視点から、家族・家庭と社会との関わりについての課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。</p> <p>◇作文、発表</p> <p>【技能】事例研究などを通して、家族や家庭生活の在り方などについて検討するための技術を身に付けている。◇ワークシート</p> <p>【知識・理解】生涯発達の視点から、家族・家庭の意義などについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるために必要な知識を身に付けている。</p>					
<p>「知識・理解」この観点は、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において必要な基礎的・基本的な事項を理解し、知識を身に付けているかを評価する。</p> <p>「関心・意欲・態度」この観点は、家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているかを評価する。</p> <p>【関心・意欲・態度】家族や家庭生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、家族や家庭の意義などに関心を持ち、男女が協力して家族を築くという視点から主体的に学習活動に取り組んでいる。◇観察法</p> <p>【思考・判断・表現】生涯発達の視点から、家族・家庭と社会との関わりについての課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。</p> <p>◇作文、発表</p> <p>【技能】事例研究などを通して、家族や家庭生活の在り方などについて検討するための技術を身に付けている。◇ワークシート</p> <p>【知識・理解】生涯発達の視点から、家族・家庭の意義などについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるために必要な知識を身に付けている。</p>					
2		エ 共生社会と福祉 (イ) 家族・家庭と社会的支援 (イ) 共生とコミュニティ		・生活課題を主体的に解決し、よりよい生活を創造するために必要な福祉を理解させる。	
				・自分の目指すライフスタイルを実現するために、生活を設計できるようにする。	
<p>「思考・判断・表現」この観点は、課題を発見する力、課題解決に向けて工夫したりする力、分かりやすい資料を作成したり発表したりするといった表現力について評価する。</p> <p>【関心・意欲・態度】地域社会の一員として、地域福祉の充実に関心を持ち、共生社会における家庭や地域の一員として主体的に学習活動に取り組んでいる。</p> <p>◇ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】共生社会を実現するために、社会の一員として課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。◇レポート</p> <p>【技能】居住する地域のコミュニティ活動やNPO活動などについて、情報を収集・整理するために必要な技術を身に付けている。◇レポート、ワークシート</p>					
<p>「思考・判断・表現」この観点は、課題を発見する力、課題解決に向けて工夫したりする力、分かりやすい資料を作成したり発表したりするといった表現力について評価する。</p> <p>【関心・意欲・態度】生涯を見通した自己の生活設計について関心を持ち、学習活動に取り組んでいる。◇ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】生涯を見通した自己の生活について考え、生活設計を工夫している。</p> <p>◇ワークシート、レポート</p> <p>【技能】生活設計を立案するための基礎的・基本的な技術を身に付けている。</p> <p>◇ワークシート</p>					
<p>「技能」この観点は、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において身に付けた技術や各分野に関する情報を調査及び収集・整理したりする力について評価する。</p>					
計					70

イ 「家庭総合」におけるホームプロジェクトの実践例

共通教科「家庭」においては、「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活デザイン」の各科目の学習内容を生かして、家庭生活や地域の生活を結び付けて生活上の課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践できるように、問題解決能力の育成を図ることが重要である。特に、各科目の学習内容と「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」との関連を図り、学習効果を上げるようにする。例えば、ホームプロジェクトを、家庭学習として活用するなどの取組が考えられる。

ホームプロジェクト

「気持ちよく着る工夫」～上手な洗濯にチャレンジ！～

体育ジャージは誰が洗うの？（あなたの家ではどのようにしているのか）



【活動内容】

○冬休みの期間に自分自身の衣服を洗濯する。

制服のシャツ・ブラウス、ユニフォーム、靴下、カーディガン、体育ジャージ、タオル（月曜日から金曜日までの5日間分として考える）

○洗濯や被服管理に関することで疑問に思ったこと、気がついたことをテーマとする。

○計画・調査・研究・実施・まとめ（レポート）自己評価・発表を行う。

	【ねらい】／◆学習活動	評価の観点			・評価規準／◇評価方法
		関	思	技	
ステップ1	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗濯の基本的な仕組みや効果について知り、衣服の手入れをとおして衣生活の自立について考え、実践する意欲をもつ。 身近な衣類の洗濯や手入れについて見直し、気付いた点や疑問に思った点からテーマを決定する。 <p>◆洗濯の基礎知識（教科書・プリント）で汚れを落とす仕組みや洗剤・おもな繊維の種類と性質等について知る。</p> <p>◆自分のくらしを見つめて、気付いたところや疑問に思うことについてチェックし、テーマを考える。</p>			●	<p>・洗濯の基本的な仕組みや効果について知る。</p> <p>◇レポート</p> <p>・衣生活に関心を持ち、問題点に取り組もうとしている。</p> <p>◇観察法、レポート</p> <p>・自分自身に合ったテーマを考え決定する。</p> <p>◇レポート</p>
ステップ2	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマについて具体的な問題解決の方法を考える。 実施のための計画を考える。 <p>◆テーマを選んだ目的を明確にする。</p> <p>《生徒のテーマ例》</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパクト洗剤は本当に汚れは落ちるか。 書道の墨を落とすには。 サッカーや野球の泥汚れを落とすには。 ティッシュを入れたまま洗ってしまった後はどうしたら良いか。 タオルをふわふわに仕上げるには。など <p>◆問題解決の具体的方法を考え計画をたてる。</p>	●		●	<p>・課題や問題点に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>◇観察法、レポート</p> <p>・問題解決を目指し、具体的な方法や順序について適切に判断する。</p> <p>◇レポート</p>
ステップ3	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に沿って実施し、実施結果を記録する。 調査、研究から改善内容を考え、改善内容を実施する。 <p>◆洗濯や手入れについて実施し記録する。</p> <p>◆調査、研究から問題をまとめる。</p> <p>◆実施結果から洗濯や衣類の手入れの改善内容を考え、さらに実践する。</p>		●	●	<p>・計画どおりでなかった場合や洗濯や気が付いたことについて記録する。</p> <p>◇レポート</p> <p>・調査、研究内容を把握し理解する。</p> <p>◇レポート</p> <p>・洗濯や衣類手入れの必要性や改善点についてさらに説明を加える。</p> <p>◇プレゼンテーション資料</p>
ステップ4	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体を振り返り、感想、反省をまとめる。 自己評価をし、今後の課題を考える。 成果について発表する。（発表の工夫） 友達の発表を聞き生活に役立つヒントを見つける。 <p>◆感想や発見した点をまとめ、自己評価をする。</p> <p>◆家族や友人、先生からのコメントを含め全体を通して今後の課題を考える。</p> <p>◆くらしに役立つ事柄や感想、反省をクラスで発表し、他の発表についても聞く。</p>	●		●	<p>・実施内容や活動の成果と課題について考えまとめている。</p> <p>◇レポート</p> <p>◇自己評価シート</p> <p>・洗濯の状況はさまざまであることを知る。</p> <p>◇レポート</p> <p>・ライフスキルがアップし、上手に活用できた点について考え、さらに改善方法について考える。</p> <p>◇プレゼンテーション資料</p>

ウ 「家庭総合」における言語活動を取り入れた実践例 1

生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、言語活動の充実を図る上で、子どもや高齢者など様々な人々と触れあい、他者と関わる力を高める活動等の充実が求められている。「読み聞かせ」の取組は様々な保育の場面で取り扱われており、言語活動を充実させるための教材として取り入れることが考えられる。

なお、学習意欲を高めるために全国高等学校家庭科保育技術検定等を活用することが考えられる。

言語活動の評価を意識した授業 ～絵本の読み聞かせの授業実践～

- 1 ねらい
幼児の発達段階にふさわしい絵本が選択でき、それに応じた読み聞かせの技術を身に付ける。
- 2 方法

教員の指導	生徒の動き
①指定年齢を提示し、その年齢にふさわしい絵本を各自で決めさせる。 ②対象児にふさわしい読み方など3分間で終わるように練習させておく。(必ずしも最初から読まなくてもよい。3分±15秒)	①指定年齢にふさわしい絵本を選び、3分で終わるように練習する。

○読み聞かせの記録プリント（試演について記録し、この記録を参考に読み聞かせ用の絵本を選ぶ）

読み聞かせの記録	年 組 番 名前
【絵本のタイトル】	
【対象年齢】	
【感想（絵本の内容、物語の長さ、読みやすさ、読み聞かせの技術など）】	

- 3 評価の観点
 - ①絵本の選択（思考力・判断力・表現力）
発達段階にふさわしい内容で、絵・お話・装丁などが優れている。
 - ②話し方・扱い方（技能）
正しい言葉や発音で読むスピードや絵本の持ち方、角度、高さ、めくり方などが適切である。
 - ③表現（思考力・判断力・表現力）
豊かな感情表現ができている。幼児の発達段階に合っている。

自己評価から、自己の課題及び解決の方策を理解しているかなどを教員が把握し、授業改善に生かすことができる。

○評価表（自己評価）

自己評価表		年	組	番	名前
読み聞かせの絵本のタイトル					
この本を選んだ理由					
読み聞かせの目標					
読み聞かせを終えた感想					
項			目		
			できている	できていない	
①絵本の選び方は適切だったか			5	・ 4	・ 3
②声の大きさ、読むスピードは適切だったか			5	・ 4	・ 3
③感情を込めた読み方だったか			5	・ 4	・ 3

○評価表（相互評価）

項 目	できている	できていない
①絵本の選び方は適切だったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
②声の大きさ、読むスピードは適切だったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	

相互評価を行うことにより、自己と比較し、自己の課題解決に生かすことができる。

エ 「家庭総合」における言語活動を取り入れた実践例 2

共通教科「家庭」においては、他者とのコミュニケーションを通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めることを通して協同的な関係を築くような活動が求められている。こうしたことから、座学形式の授業であっても、言語活動を取り入れ、グループで協議したり、発表したりといった生徒の主体的な学習が多くなるようにすることが重要である。

高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり ～グループ協議を取り入れた授業実践～

1 ねらい

- ◆高齢者の意思を尊重しながら、高齢者がいきいきと暮らせる社会づくりについて何が必要かを考える。
 - ・高齢者が残存能力を生かし、社会の一員として自立した生活を送ることについて考える。
 - ・高齢者の生活課題を把握するとともに、高齢者に対する家族や地域等の支援の在り方について考える。

2 進め方

- ①5～6人のグループをつくり、司会・記録・報告役を決める。
- ②ワークシートの項目を見て、高齢者がいきいきと暮らすために必要と思うことを、ランキングする。
- ③グループの中で、各自のランキングを見せ合いながら選択理由を話し合い、グループのランキングを作る。
- ④各グループから話し合いの結果を発表する。
- ⑤自分たちが、高齢者のためにできることを考える。
- ⑥各グループ討議の内容を発表する。

高齢者の生活と福祉などについて、現代の家庭や地域の生活から課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現できることが重要である。

3 留意点

- ・個人、グループの順番で考える。
- ・グループでランキングするときの理由について、互いの考えを尊重しながら深めていく。
- ・グループごとに高齢者の生活実態から高齢者が不安に思うことやもっとも望んでいると思われることを視点にする。
- ・グループごとに意見を出し合い、もっとも重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選ぶ方法で、グループの意見をまとめ、ワークシートに記入する。

ワークシート

高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり

◇ 高齢者がいきいきと暮らすために重要なことを下のA～Iの中から選び、下のランキング表に記号を書き入れてください。

1		
2	2	
3	3	3
4	4	
5		

- ・・・もっとも重要だと思うものを1つ
- ・・・次に重要だと思うものを2つ
- ・・・中位に重要だと思うものを3つ
- ・・・やや重要性が低いと思うものを2つ
- ・・・重要性が低いと思うものを1つ

- A 自分でできる仕事を確保し、収入をえること
- B 日頃から隠し事をせず、近所同士お互いに認め合う会話ができること
- C 必要な時に介護サービスが受けられること
- D ユーモアと生活を楽しむ気持ちを持つこと
- E 身体を気づかい、健康に暮らすこと
- F 社会や地域に役立つようなことをすること
- G 趣味やスポーツなど、楽しめるグループを持つこと
- H 生活しやすいように、施設・設備を改善すること
- I 店舗や病院の近くなど便利な場所に住むこと

Topic

「消費者教育の全体計画」について

消費者教育は、家庭、公民、情報の教科に関わらず、学校の教育活動の中で、さまざまな教育活動と関連付けながら、効率的、効果的に実践されることが望ましい。
ここでは、学校における消費者教育の全体計画の例を示す。

